

第39回

全日本物流改善 事例大会 2025

発表者募集

～皆様が取り組んだ“改善事例”を募集! 発表事例より「物流改善賞」を決定!!～

応募締切日 | 2025年2月3日(月)

大会開催日
(予定) | 1日目: 2025年5月13日(火)
2日目: 2025年5月14日(水)

主催 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 一般社団法人 日本物流資格士会

後援 公益社団法人 全日本トラック協会 東京商工会議所 一般社団法人 日本倉庫協会 一般社団法人 日本パレット協会
一般社団法人 日本物流システム機器協会 一般社団法人 日本物流団体連合会 (順不同・申請中)

発表者募集のご案内

全日本物流改善事例大会は、優れた物流改善の事例を発表し、改善の手がかりやノウハウを物流の実務者同士が共有し合う交流の場です。

改善対象範囲により、物流センター等での現場改善を対象とした「I.物流業務部門」と運営・管理部門での改善を対象とした「II.物流管理部門」の2部門で事例を募集いたします。

応募事例の中から選考された「優秀事例」は、全日本物流改善事例大会2025にてご発表いただき、クリスタルを贈呈いたします。さらに発表された「優秀事例」の中から「最優秀物流改善賞」「優秀物流改善賞」※を決定し、2025年6月開催のJILS定時総会の席上で表彰式を行います。

身近な工夫や、さりげない努力、小集団活動による改善の成果をお気軽にご応募ください。

物流現場、物流業務、物流管理部門等物流にたずさわる幅広い方々からの積極的なご応募をお待ちしております。

※旧名称「物流合理化賞」「物流合理化努力賞」。2022年大会より変更となりました。

全日本物流改善事例大会2025 開催要領

経済活動の多様化に伴い、物流機能における改善のあり方も条件によって様々な取り組みがなされている。その結果、物流における優れた改善のノウハウが多くの企業に蓄積されてきた。これを相互に発表し情報交換することは、物流改善活動の裾野を広げ、改善のヒントを共有するうえで大きな意義がある。こうした状況を鑑み、「全日本物流改善事例大会2025」を開催する。

会期

2025年5月13日(火)・5月14日(水) 10:00~17:00 (開催時間は予定)

会場

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター sola city Hall
東京都千代田区神田駿河台4-6

主催

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 (JILS)
一般社団法人 日本物流資格士会

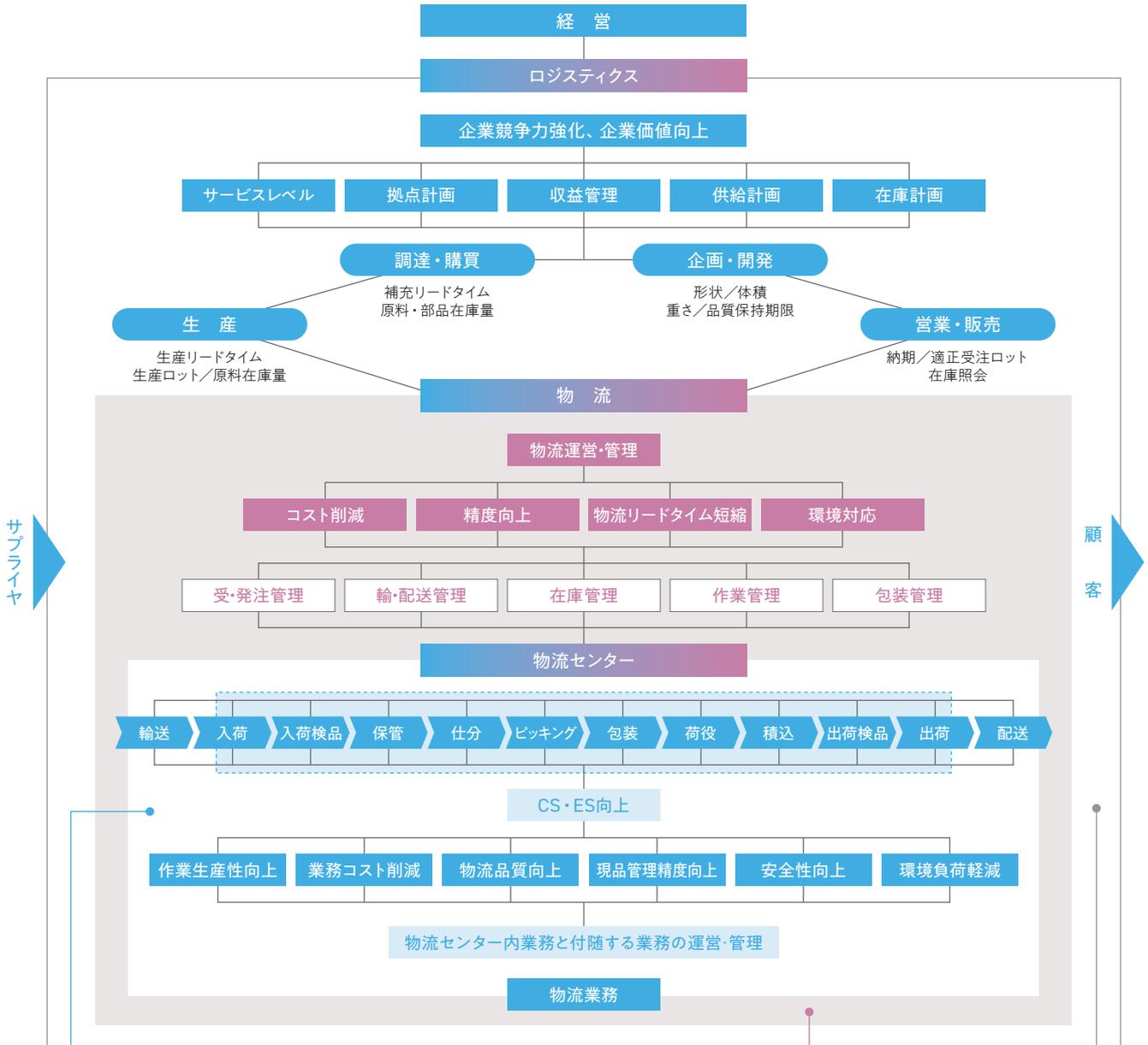
全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員名簿

2024年10月現在 (順不同・敬称略)

委員長	成蹊大学	名誉教授	渡邊 一衛
副委員長	東京海洋大学	学術研究院 流通情報工学部門 教授	黒川 久幸
委員	伊藤忠食品(株)	ロジスティクス本部 本部長代行	神山 浩二
委員	(株)ANA Cargo	グローバルマーケティング部門 マーケティング業務部 担当部長	中井 尚
委員	SBS東芝ロジスティクス(株)	物流改革推進部 企画担当 参与	脇田 哲也
委員	SBSロジコム(株)	営業企画部長(日本物流資格士会)	三身 直人
委員	(株)オカムラ	ロジスティクス統括部 物流企画部 課長	磯崎 隆之
委員	(株)カスミ	SCM担当マネジャー	齋藤 雅之
委員	サッポログループ物流(株)	経営戦略部 部長付	浦田 浩明
委員	山九(株)	物流事業本部 物流企画部長	石渡 教雄
委員	大成建設(株)	エンジニアリング本部 エンジニアリング第1部 部長	津田 亮一
委員	日本通運(株)	ロジスティクス事業推進部 専任部長	吉村 治之
委員	(公益)日本ロジスティクスシステム協会	JILSアドバイザー	飯田 正幸
委員	福島大学	理工学群 共生システム理工学類 准教授	寛 宗徳
委員	本田技研工業(株)	サプライチェーン購買本部 生販部品企画部 調達・供給プロセス課 主事(生産管理部会サブヘッド)	新井 伸明
委員	三菱地所(株)	物流施設事業部 リーシング・PMユニット 専任部長(日本物流資格士会)	堀川 亮一
委員	三菱倉庫(株)	倉庫事業部 品質管理チーム マネジャー	藤本 里子
委員	三八五流通(株)	営業本部 引越事業部 法人担当部長(日本物流資格士会)	横川 容平
委員	ロジスティクス エンジニア オフィス 茅ヶ崎	代表(日本物流資格士会)	藤巻 敬

募集領域

日本ロジスティクスシステム協会(JILS)では、「ロジスティクス」「物流」「物流業務」の3領域に区分して「ロジスティクス」を構成する1つの業務を「物流」とし、「物流」の中で物流センター内業務と付随する業務を「物流業務」としています。「全日本物流改善事例大会2025」では、「物流」と「物流業務」における改善事例を募集いたします。



本大会での募集部門

	I. 物流業務部門 (物流センター、工場、商業施設等の構内での現場改善)	II. 物流管理部門 (運営・管理部門での改善)
対象範囲	ひとつの作業所(現場)で完結する小集団が対象	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、ピッキング、仕分、包装、荷役、積付、出荷、配送	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流センター、生産工場、建築現場、病院、商業施設、港湾施設、高層ビル等	物流部門等
役割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理精度向上、安全性向上、環境負荷軽減等	コスト削減、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応等
主体者	主任・リーダー、派遣社員・パートタイマー、協力会社	課長、係長

	ロジスティクス
対象範囲	企画・開発、生産、物流、営業、販売を総合した範囲が対象
対象業務	企画・開発、調達・購買、生産、物流、営業・販売
関係部門	部門横断的(協力会社連携)
役割	サービスレベル、拠点計画、収益管理、供給計画、在庫計画等

※上記領域区分については、「物流現場改善推進のための手引書(改訂版)」にて解説しています。[JILS改善手引書]で検索してください。
 ※上記領域区分における「ロジスティクス」に対する改革・改善事例については、JILSの「ロジスティクス大賞」へのご応募をおすすめいたします。
 詳しくはJILSホームページもしくは事務局までお問い合わせください。

こんな事例ありませんか？

身近に行われている生産性、物流品質、安全性、顧客サービス向上やコスト低減、環境負荷軽減を実現した事例はありませんか。

I. 物流業務部門

(物流センター、工場、商業施設等の構内での現場改善)

庫内作業の改善例

- ピッキングリストや棚表示、ピッキング作業の改善
- 人員配置の改善によるピーク時対応や負荷の標準化
- 荷役機械、保管設備、パレット、容器、情報端末等の改善
- 出荷頻度や取扱製品に応じた保管、配置方法の改善
- 作業環境、作業方法の改善
- 包装作業の改善

輸配送の改善例

- 復路輸送の空荷防止などによる収益の向上
- 誤出荷、誤納の減少
- トラックの積載率、回転率、運行効率の向上
- トラックの滞留・積載時間の短縮

輸出・輸入業務の改善例

- 港湾、空港など輸出入物流拠点における業務改善
- コンテナ輸送における物流の効率化
- 通関業務における事務作業の改善

テクノロジーを活用した改善例

- マテハン機器・省人化機器(ロボティクス)・IoT・AIの活用による効率化・改善 等

物流全般

- 環境対応、環境負荷の低減を目指した活動
- 労働環境改善、働き方改革
- CSの向上(クレームの減少)
- 作業安全性向上への取り組み
- 災害対応について(震災・水害等)
- SDGsおよびサステナビリティに向けた取り組み
- 教育訓練によるモラル・モチベーションの向上
- 企業連携・サプライチェーンへの取り組み
- 労働力不足への対応

II. 物流管理部門

(運営・管理部門での改善)

物流システムの改善例

- 物流拠点の統合・再配置による改善
- 事前出荷情報の取得と活用による改善
- 国内・海外物流拠点間輸配送の改善
- 港湾地区における渋滞への対応
- IT・IoT活用による効率化、業務改善
- 物流に配慮した包装設計
- パレット、包装資材の環境対策

管理系(取引条件等)の改善例

- 納期回答の迅速化
- 取引条件の変更による改善
- 物流変動に合わせた作業体制の構築
- 在庫の適正化
- 現場事務へのRPAの活用 等

※日本企業の海外現地法人での改善事例も対象です。

物流改善賞[※]

全日本物流改善事例大会実行委員会では、大会でご発表いただいた優秀事例を審査し、「最優秀物流改善賞」および「優秀物流改善賞」を決定いたします。
2025年6月開催のJILS定時総会にて表彰式が執り行われ、
受賞企業には正賞(表彰状)と副賞(賞金)を授与いたします。
また、JILS機関誌「ロジスティクスシステム」の他、専門誌等で発表いたします。

2024年度 物流改善賞 受賞事例

2024年度 最優秀物流改善賞

物流業務部門	
運送事業者に選ばれる物流センターへの挑戦 ~倉庫運営改善による待機時間削減の実現~	花王株式会社
海上コンテナ積載率改善活動 ~コンテナ本数削減による海上運賃の抑制~	コマツ物流株式会社

2024年度 優秀物流改善賞

物流業務部門	
ムリ・ムダ・ムラ取り改善による作業者の負荷軽減 ~ストレスのない作業を目指して~	SBS東芝ロジスティクス株式会社
パレット画像認証システムの開発・導入	TOTO株式会社
包装荷姿から2024年問題を解決 ~リターナブル集合包装容器で作業改善と廃棄量減~	株式会社東北ウエノ

物流管理部門

梱の商品配置変更支援ツールの開発とツールを用いた“ムダ”な移動距離の削減 ~サステナブルでロジカルな現場の実現に向けて~	花王株式会社
目指せパレット紛失ゼロ! ~パレット管理精度の向上~	花王株式会社 / 三甲リース株式会社

2024年度 実行委員特別賞

物流業務部門	
タイ国・電子部品物流センターでのHHT (OCR) 導入によるオペレーション改善	MELCO LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD.

社名は受賞当時のものです。 ※2022年大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更いたしました。



応募要領

1 募集部門

I. 物流業務部門
(物流センター、工場、商業施設等の構内での現場改善)

II. 物流管理部門
(運営・管理部門での改善)

2 応募方法

① 発表申込書、② アブストラクト(発表内容をA4用紙1枚にまとめたもの)を事務局宛にご送付ください。

メールにてご応募を受け付けております。申込書はホームページからダウンロードしてください。 <https://www1.logistics.or.jp/>

※優秀事例の選考は発表申込書及びアブストラクトの内容を基に行います。必ず事前にアブストラクト作成要領をご参照いただきご作成ください。

※企業および製品・サービスのPRを主としたご応募はご遠慮ください。 **※事例応募の際には、必ず荷主等関係者の承諾を得てください。**

メール送信先	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 青柳 宛 kaizenjirei@logistics.or.jp	応募締切日(締切厳守) 2025年2月3日(月) 必着
--------	--	---------------------------------------

3 選考および審査基準

優秀事例の選考および物流改善賞の審査は下記基準のもと行われます。

① 現状把握度

自社および自部門の目標や、物流特性を理解し、現状を正しく認識した上で解決すべき問題を抽出し、原因の分析ができていますか。

② 改善企画度

抽出した問題点に対して、具体的に実行可能な改善計画を立案し、改善活動に関わる全ての人に理解できる目標を策定できているか。

③ 改善実行度

改善計画の実行を周知徹底し、マニュアル等を活用して教育指導・コミュニケーションを図り、トラブルなどにも適切に対処できているか。

④ 評価・定着度

改善の進捗状況や、その達成度合いを正しく評価し、必要に応じて改善活動の促進を図るとともに、活動を定着化することができているか。

⑤ 成果度

顧客満足度や生産性の向上など現場および社内や関係企業への定量的な効果。

⑥ 表現力

改善内容を分かりやすくテキストや発表で表現できているか。

⑦ 総合点

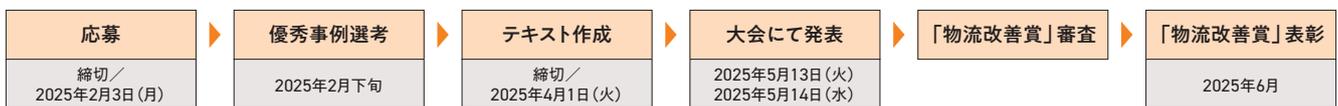
上記項目では評価されにくい部分について総合的に判断する。

4 優秀事例選考

実行委員会にて発表申込書およびアブストラクトの内容を基に応募事例を選考し、「優秀事例」を選出いたします。優秀事例につきましては2025年5月13日(火)・5月14日(水)開催の「全日本物流改善事例大会2025」にてご発表いただきます。(1テーマ20分程度)

※発表日・時間は事務局にて決定させていただきます。なお、1社から複数事例の応募があった場合は、発表いただける事例数に制限をかけた場合もございます。

5 応募から表彰までのスケジュール



6 テキストの作成

優秀事例に選ばれた方には、大会にて配布するテキストの作成をお願いしております。

テキストは改善の背景・目的・成果等、ご発表いただく内容を網羅したものを作成してください。

詳細につきましては別途ご案内いたします。

原稿締切日
2025年4月1日(火)

物流現場改善優良認定制度がスタートいたしました!
物流現場改善に積極的に取り組む企業を認定する制度です。

🔍 物流現場改善優良認定制度

お申し込み・お問い合わせ先

公益社団法人
日本ロジスティクスシステム協会
JILS総合研究所 青柳 メール: kaizenjirei@logistics.or.jp

全日本物流改善事例大会 アブストラクト作成要領

1. アブストラクトはA4 1ページとする。(用紙は縦・横どちらでも可)
2. フォントサイズは10.5ポイント以上とする。
3. 改善事例の取り組み内容や成果が具体的に分かるように、必ず定量的なデータを用いて作成すること。
4. 図表・グラフ等を用いても可。

※大会で発表いただく優秀事例の選考は発表申込書とアブストラクトの内容を基に行います。

※アブストラクトの記入例をご覧になりたい場合は、事務局までお問い合わせください。

※アブストラクトと大会当日の発表内容に相違がある場合、物流改善賞の選考対象から外れる場合があります。

アブストラクト様式例

会社名：○○○株式会社

氏名：○○○○○

改善事例のテーマ：

※改善活動の取り組み内容やポイントが分かるようなテーマを設定してください。発表の際のタイトルとなります。

※社名の入ったタイトルはご遠慮ください。

改善内容の説明

※()内は主に対応する審査基準です。

1. 現状把握(現状把握度)

- 物流改善の対象業務について簡潔に説明してください。
- 自社および自部門の目標・現状の物流特性から、対象業務における問題を抽出し、分析結果を示してください。問題のうち、改善対象とする問題が一部分である場合は、対象とする問題を示してください。
- 問題を定量的に示すことができれば、その数値を示してください。

2. 改善方法(改善企画度)(改善実行度)(評価定着度)

- 改善の対象とする問題を解決するための改善内容を説明してください。その際、改善内容により問題が解決される根拠や理由を示してください。
- 紙面に余裕があれば、改善活動をトラブルなく遂行するためにした工夫や、上手く行かなかった取り組みも有益な情報を含んでいるため、改善活動を遂行する過程の説明として盛り込んでください。

3. 改善効果(成果度)

- 顧客サービスや生産性の向上など、改善活動により得られた効果をできるだけ定量的に示してください。
- 改善目標の達成度を示すだけでなく、改善前後の比較も示してください。

4. 改善事例の優れている点

- 改善内容や改善活動の遂行などにおいて優れていると思われる点を記述してください。

全日本物流改善事例大会2025 発表申込書

会社名			
所在地	〒 -		
所属		役職	
ふりがな			
氏名			
TEL	-	-	E-mail @

1. 応募部門等

▶どちらかの部門にチェックをお願いします。

	<input type="checkbox"/> I. 物流業務部門	<input type="checkbox"/> II. 物流管理部門
対象範囲	ひとつの作業所(現場)で完結する、小集団が対象の事例	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象の事例
対象業務	<p>▶改善事例の対象となる業務に○をつけてください。(あてはまる業務すべて)</p> <p>物流業務</p> <p>輸送 → 入荷 → 入荷検品 → 保管 → 仕分 → ピッキング</p> <p>包装 → 荷役 → 積込 → 出荷検品 → 出荷 → 配送</p> <p>その他</p>	<p>物流管理</p> <p>受・発注管理 輸・配送管理 在庫管理</p> <p>作業管理 包装管理</p> <p>その他</p>
主な取り扱い製品	▶改善事例における主な取り扱い製品をご記入ください。	

2. 改善事例テーマ

※取り組み内容やポイントがわかるようなテーマを設定してください。発表の際のタイトルとなります。
※社名の入ったタイトルはご遠慮ください。

3. 改善事例について要約文をご記入ください(150文字以内)

※大会パンフレットに掲載いたします。

4. 今回お申し込みいただいた改善事例のどこがセールスポイントであるか、社内外の方の評価をお書きください

5. 録画配信について

全日本物流改善事例大会2025では、さらなる情報交流の促進を図るため、各事例の発表動画を収録し、大会終了後一定期間(2025年5月~2025年12月頃予定)WEB上での録画配信をいたします。ご理解の上、以下にチェックをお願いします。

発表事例の録画配信を承諾する。

- 本申込書にアブストラクト(発表内容をA4用紙1ページにまとめたもの)を添付して、事務局宛にご送付ください。
- 企業および製品のPR内容でのご応募はご遠慮ください。
- 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は当協会のプライバシーポリシー(<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>)をご覧ください。

発表申込書は
WEBからダウンロードできます。

🔍 JILS

応募締切日(締切厳守) **2025年2月3日(月) 必着**

※応募締切日を過ぎた発表申込書は受理できませんのでご注意ください。